

『洞谷記』二種対照(一)

河合泰弘

はじめに

『洞谷記』は、日本曹洞宗に於いて太祖と称される瑩山紹瑾（一二六四—一三三二五）の能登永光寺草創から自身の示寂直前までの記録を中心とした史料で、瑩山の晩年および永光寺草創期の様子を知る上で貴重な史料となつており、

現在、古写本・流布本と呼ばれる二種四本の写本が知られてい。古写本については、永享四年（一四三二）の奥書きを持つ加賀大乗寺所蔵のいわゆる「秘本」一本が知られるのみであるが、流布本には、大乗寺所蔵本・永光寺所蔵本・駒澤大学所蔵本の三本が存在する。流布本の中では大乗寺のものが最も古く、享保三年（一七一八）の年記を持ち、

これは永光寺所伝の「室中の秘録」を底本に大乗寺所伝の「室中の古本」との異同を割注に載せたものであり、底本に存在しない段落をも末尾に付加したものである。永光寺所蔵本はこれを転写したものと思われ、また駒澤大学所蔵本もこれら二本を受けたものと考えられている。

この両種は成立過程を異にするようで、両種を比較すると、特に文章の配列に著しい相違がみられる。『洞谷記』の原形は、瑩山の日頃の所感を書き綴つた、いわばメモ書きのようなものの寄せ集めと考えられており、古写本は、それを比較的そのまま、あまり意図をはたらかせずに転写したと思われ、そのためか、文章の配列と、時代の先後關係が必ずしも一致していない。一方、流布本は、それを年

『洞谷記』二種対照(一)（河合）

代順に整理するという意図のもと、編集されたものと考えられる。そのため、かなり整った形態をもつが、残念なことに、中には日付のない段落もあり、また編者の見解の相違もあつてか、必ずしも正しく年代順に配列されていない。

また、いずれのテキストも、後人の意図がはたらいて編集されたもので、文章表現の違いも見られ、それぞれに独自の文章も存在する。

これらのテキストは、両種ともに活字化が試みられていて、字句の読み誤りや意図的としか思えない改編など、多くの問題を含んでおり、訂正補筆することが急務である。

本稿では、古写本の配列を基準にし、これら二種のテキストを対照し、両者の構成・内容の相違および、文章語句の増減・改編・移動等の様子を明確にしようとするものである。これにより、それぞれの性格・編集意図・成立過程等をも導き出すことが可能になるとともに、ひいては鎌山の晩年の行実・見解を探る資助になるかと思う。

なお、今回紙面の都合上、古写本の段落番号（54）
「洞谷十境」までを掲載した。

凡例

一、対照に使用したテキストは、左記の二本である。

古写本：大乗寺本（秘本）一卷一冊 永享四年（一四三二）
筆 石川県金沢市大乗寺所蔵（石川県立美術館委託
保管）

一、本文校定に際しては、左記の翻刻資料を参考にした。
古写本：『宗学研究』第一六号（大谷哲夫翻刻／昭和四九年）
所収本
流布本：『曹洞宗全書』宗源下（曹洞宗宗務庁／昭和五年）
所収本
『常済大師全集』（大本山總持寺／昭和一二年）所収
本
『鎌山禪』第八・九巻（山喜房仏書林／平成元・二年）
所収本

なお、本文中の句読点・返点は、原文及び右記の翻刻資料を参考に筆者において記した。

一、本文対照にあたっては、大乗寺秘本の本文順序を基準として段落を区切り上段に載せ、それに対応する大乗寺流布本の該当本文を下段に配列した。なお、両本の段落分け・段数は松田文雄氏の分類に従つた。（『鎌山禪』卷九、四六・五二頁）
一、大乗寺流布本の原本の「永光寺室中の秘録」には元来存在

せず、大乗寺流布本の末尾に「大乗寺室中の秘本」より転写されている段落は、傍線を付して掲載した。一、本文は原本を忠実に再現することにつとめた。また、両本ともに存する本文中の注記は、繁雑になることを避けるため、その位置の右側に番号を付し、各段落の末尾にまとめて記した。

一、流布本については大乗寺本と永光寺本（一巻一冊、石川県

羽咋市永光寺所蔵）・駒澤大学本（一巻一冊、駒澤大学図書館所蔵）との対校を行い、字句の異同のある場合は、該当箇所の右側に丸数字を付し、各段落末尾に注として記した。その際、永光寺本は（永）、駒澤大学本は（駒）の略号を用いた。

一、原本における異体字・略体字・古体字等は、特別な場合を除いて当用漢字を用いた。

| 古写本（大乗寺所蔵「秘本」） | 流布本（大乗寺所蔵本） |
|---|--|
| <p>洞谷記</p> <p>開山瑩山記録</p> <p>(1) 元亨四年甲子二月三日、法座鍼立。己丑日、予六合也。仏在鹿野苑、初転法輪日也。仏往因為善友太子時、往¹龍宮²求如意宝珠、成和三年五月己丑日也。出宿曜經、未入³三月節、二月内万吉日也。諷經合山群集、楞嚴呪一遍、始打鑿、大工善真大夫鍼立。</p> <p>1 「鍼」の右脇に「王伐切一斧」あり</p> | <p>洞谷記</p> <p>開山瑩山記録</p> <p>(60) 同三月三日、法堂法座鍼立。己^①丑、予六合日也。仏在鹿野苑、初転法輪日也。仏性^②因為善友太子時、往¹龍宮²求如意宝珠、成和三年五月己丑日也。出宿曜經、未入³三月節、二月内吉日也。諷經合山群集、鳴鐘、楞^③嚴神呪一遍、始打鑿。大工善真大夫鍼立。</p> <p>1 「性」の下に「異作往」あり 2 「内」の下に「異有万」あり ① 駒は「己」を「乙」に作る</p> |

古写本 (大乗寺所蔵「秘本」)

流布本 (大乗寺所蔵本)

(2) ② 駒は「性」を「往」に作り、右脇に「イ作性」あり
③ 永駒は「楞」を「棟」を作る

(2) 同二月九日、以鬼宿、布灑、星合日、予六合日、乙丑、二月万吉日、犯土造作等吉日、法堂地引始。一衆普請。諷經消災呪一遍、先師大乘和尚、造営祈禱佳例也。人夫三百人地引也。不知普請僧數定¹也。仮廊、自僧堂至方丈²加定也。

(59) 同二月九日、以鬼宿、布灑、星合日、予六合日、乙丑、二月万吉日、犯土造作等吉日、法堂地引始。一衆普請。諷經消災呪一遍、先師大乘和尚、造営祈禱佳例也。¹人夫三百人地引也。普請僧衆、不知其數定¹。仮廊、自僧堂至方丈²加定。

1 「定」の下に「異有也」あり (駒はこの注なし)
2 「定」の下に「異有也」あり (駒はこの注なし)
① 駒は「佳例」を「佳倒」を作る

(3) 同四月八日、開堂法儀次序。前日出法堂東壁云、日本国、正中元年四月八日、

堂頭和尚就²本寺、開堂法儀次序。

辰時、法堂莊嚴、引紅幔、今略^レ之。法座、有転法輪蓋、八龍八幡、八面八鏡、白獅子二頭。主丈入袋靠²雲床、¹²弘子入袋安²香台、左脇楷建^レ之。右楷白槌長老登、左楷

(61) 同四月八日、開堂法儀次序。前日出法堂東壁云、日本国、正中元年四月八日、

堂頭和尚就²本寺、開堂法儀次序。

辰時、法堂莊嚴、引紅幔、今略^レ之。法座、有転法輪蓋、八面八鏡、八龍八幡^①、有^レ之。拄杖靠²雲牀、弘子有²雲牀¹。法座左脇建²小椅、為²拈疏¹也。又右脇建²小椅、白槌長

燒香侍者登。法座左脇建二小椅一為二拈疏一右脇建二小椅一白槌長老位。左辺莊レ棹安二疏等一知事上肩建二靠椅一旦那位。

法座楷下、建レ棹安二香爐一前設二拜席一旦那拜。又建レ棹安二襯物一又建レ棹、花瓶香爐、旦那燒香。次點心、就二妙嚴院一次鳴レ鼓、集來如常。但主人鳴二法事一入堂。錦幡傘1蓋橋輿等、略レ之。

白槌長老先入、立二頭首上肩一登座時者、經二法座之右一登。次旦那入堂、知客引入、接二知事上肩一次拈疏、主人立二小椅前、旦那度レ疏与レ師、師有二法語一與二燒香侍者、賜二法語一畢、度首座二令一宣讀。兩班疏、知客度レ疏与レ師、師拈二法語一畢、書狀侍者、度二維那一令二宣讀。次指二法座一有二法語一次陞座、主人正楷淨住長老右楷。次拈香次祝聖、次旦那。旦那香時、旦那燒香三拜。次著レ椅、侍者燒香下座、問二訊楷下一兩班問訊如レ常。但每二問訊一鳴二法事一後淨住長老問訊。次白槌淨住長老、拈二出袖裏金槌一白槌一下云、法筵竜象衆、當觀第一義。又一下。

老位。又左辺莊二香棹一安二疏等一又正面階左右、白獅子二頭、置レ之。左右階、左侍者登、右白槌登。又知事上肩建二椅子一檀那位。

法座階下、建レ棹安二香爐一正面設二拜席一為二檀那禮拜一又建レ棹安二襯物一又建レ棹、花瓶香爐、置レ之、為二檀那燒香一次就二于妙嚴院一點心。次鳴二法鼓一衆集如常。主人鳴二法事一入堂。錦幡傘蓋橋輿等、今略レ之。

白槌長老先入堂、立二頭首上肩一登座時者、經二法座右一次檀那入堂、知客引、接二入知事上肩一次疏、先主人前立二小椅一檀那疏、都寺取度二與主人、主人拈有二法語一語畢、與二燒香侍者、賜二度首座一令二宣讀。兩班疏、知客取度二與主人、主人有二法語一語畢6、與二書狀侍者、賜二度維那二令一宣讀、云云。次主人指二法座一有二法語一語畢後、陞座、主人正階白槌長老右階各登。次拈香先祝聖、次嗣香。檀那香時、檀那燒香三拜。次主人著レ椅後、燒香侍者、下座而階下問訊、在レ之。次維那出班而請二白槌師一淨住長老、拈二出袖裏金槌一一下曰、法筵竜象衆、當觀第一義。又一

『洞谷記』二種对照(一)(河合)

古写本(大乘寺所藏「秘本」)

次問答說法畢、又白槌云、諦觀法王法、法王法如是。又白槌下座、旦那謝拝。次人事次第、毎^レ拝首尾打鑿。淨住寺、兩展三拝。頭首大衆、同。前資勤旧、同。侍者小師、大展三拝。尼衆、同。行者、三拝。沙弥童行、九拝。人工、再拝。

今月日 侍者 源照 承順 謹白。

能州洞谷山東西両班尊道等、並江湖雲衆至簡等、素溪等

今月初八日、転

仏生令辰、請^レ開堂転法^者。

右伏惟、洞水逆流、宗派溢于江湖、大陽普照、光輝遍於日域。滔天波瀾、請欲^レ識^レ取根源、永光伝燈、願勿^レ

神^ニ秘正命。令^ミ此後五百歲、再^ニ見靈山会^一矣。謹疏。

堂上大和尚、慈悲容納。

歷代諸仏祖、共作証明。謹疏。

元亨四年四月八日、両班尊道等、並江湖雲衆至簡等、素溪等、謹疏。

流布本(大乘寺所藏本)

次禪客問答、主人說法畢、又白槌師合掌曰、諦觀法王法、法王法如是。又一下。主人下座、檀那拝謝。次人事次第、人事、衆僧各々隨^レ意、相札^ニ之。毎^レ拝首尾打鑿。先淨住寺、兩展三拝。次知事、次頭首并大衆、兩展三拝。次前資勤旧、同。次侍者小師、大展三拝。尼衆沙弥童行、各各九拝。人工、再拝。

今月日³ 侍者 源照 承順 謹白。

能州洞谷山東西両班尊道等、並江湖雲集至簡等、素溪等⁴

今月初八日、転

仏生令辰、請^レ開堂転法^者。

右伏惟、洞水逆流、宗派溢于江湖、大陽普照、光輝遍於日域。滔天波瀾、請欲^レ識^レ取根源、永光伝燈、願勿^レ

神^ニ秘正命。令^ミ此後五百歲、再^ニ見靈山会^一矣。謹疏。

堂上大和尚、慈悲容納。

歷代諸仏祖、共作証明。謹疏。

正中元年四月八日、両班尊道等、並江湖雲集至簡等、素溪等、謹疏。

南閻浮提大日本國、能州賀島郡酒井保、洞谷山永光寺、大

旦那藤原家方、

今月初八日、恭遇^二

釈迦如來降誕之佳辰、忝請^一

本師堂頭大和尚、就^二 新造

寶華王座、奉^レ令^二

開堂為人者。

伝聞、師承有^レ拠、名曰^二伝燈。始顯^二法嗣、是稱^二開堂。

密付自不^レ彰、緇白必推請。伏請

堂上老師大和尚、拈^二出懷香、亘^レ天薰烈。仰冀、

淨住堂頭大禪師、敲^二擊金槌、盡地告証矣。謹疏。

悚息咨目、堂頭和尚、慈悲容納。

謹疏。

淨住江湖、諸位禪師、同共証明。

謹疏。

元亨四年四月八日、大旦那藤原家方、謹疏。

洞谷山開闢和尚、就^二當山^一開堂。

拈^二本願疏。施^二捨我山、如^レ吐^二唾沫。推^二請師承、開^二闢

華座。衲僧圓通之手眼、外護重法之篤信、未^二拈出^一以前、

能州⁵賀嶋郡酒井保、洞谷山永光寺、

大檀那藤原家方等、

今月初八日、恭遇^二

釈迦如來降誕之佳辰、忝請^一

本師堂上大和尚、就^二新造

寶華王座、奉^レ令^二

開堂為人者。

伝聞、師承有^レ拠、名曰^二伝燈。始顯^二法嗣、是稱^二開堂。

密付自不^レ彰、緇白必推請。伏請

堂上老師大和尚、拈^二出懷香、亘^レ天薰烈。仰冀、

淨住堂頭大禪師、敲^二擊金槌、盡地告証矣。謹疏。

悚息咨目、堂頭和尚、慈悲容納。

謹疏。

淨住江湖、諸位禪師、同共証明。

謹疏。

正中元年四月八日、大檀那藤原家方、謹疏。

洞谷山開闢和尚、就^二于當山^一開堂。

拈^二本願疏。施^二捨我山、如^レ吐^二唾沫。推^二請師承、開^二闢

華座。衲僧圓通之手眼、外護重法之篤信、未^二拈出^一以前、

『洞谷記』二種对照(一)(河合)

| 古写本（大乘寺所藏「秘本」） | 流布本（大乘寺所藏本） |
|--|---|
| 雖レ無人疑著、請首座禪師、為說破、普令二人天更悉知。 | 雖レ無人疑著、請首座禪師、為說破、普令二人天更悉知。 |
| 拈兩班疏。麟鳳龜竜、為瑞為祥、天上星地下木、字義炳如目足。悅衆開宣、委悉衆請。指法座、此座高廣、聖凡不通、仏祖超昇、興起宗風。 | 拈兩班疏。麟鳳龜竜、為瑞為祥、天上星地下木、字義炳如目足。悅衆開宣、委悉請衆。 ⁶ 登座指法座云、此座高廣、聖凡不通、仏祖超昇、興起宗風。 ⁷ |
| 拈香。此一辨香、恭為。 | 拈香。此一辨香、恭為。 |
| 今上皇帝陛下万歳。聖壽無疆、等天地之蓋載、兆民有賴、同陰陽之生成。 | 今上皇帝陛下万歳。聖壽無疆、等天地之蓋載、兆民有賴、同陰陽之生成。 |
| 此一辨香、奉為。當山大旦那子孫一族、洎諸堂日越、供衆諸旦。伏願、松栢壽永、新歎年不变之翠色、法僧寶惠、豐恒時不尽之供衆、世世純熟善根、生生運載此乘。 | 此一辨香、奉為。當山大檀那子孫一族、洎諸堂檀越、供衆諸檀。伏願、松栢壽永、新歎年不变之翠色、法僧寶惠、豐恒時不尽之供衆、世世純熟善根、生生運載此乘。 |
| 此一辨香、供養。今日降誕 | 此一辨香、奉供養。今日降誕 |
| 本師尺迦如來、直下歷代諸祖、及遍參善知識。歷劫為作互作主伴之法事、諸會助問答決疑之仏化。 | 本師釈迦牟尼如來、直下歷代諸祖、及遍參善知識。歷劫互為主伴之法事、諸會助問答決疑之仏化。 |
| 此一辨香、七仏以前拈出事、是凡是聖未知名、此箇平常無生句、言前更不得覆藏。 | 此一辨香、七仏以前拈出畢 ^⑯ 、是凡是聖未知名、此箇平常無生句、言前更不得覆藏。 |
| 爇奉為 | 焚奉為 |
| 釈迦牟尼仏五十三代、永平第三世、加州楣壽林大乘開山、 | 釈迦牟尼仏五十三代、永平第三世、加州楣樹林大乘開山、 ^⑰ |

先師介公徹通大和尚。香氣現前、覆育兒孫來、薰烈亘天、氤氳穗烟去、以酬法乳之恩、遂就座。

淨住長老白槌。

師云、若論第一義諦、為諸仏為智母、為諸聖為宗家。亘古亘今、無人疑著。衆中莫有下解商量底衲子上麼。僧問、彩鳳銜來、棲庭玉樹、曇花開敷、世界方香。是如何奇瑞乎。師云、人々鼻孔、本無疑著。僧云、虎嘯風生、竜吟雲起。五位位別、君臣道合。所以當此時節、釂尊降生藍園、和尚放出生普光。尺尊即一手指天、一手指地云、天上天下唯我獨尊。和尚今日普光、最初一句如何。師云、法座類妙高、堂々堆露地。僧云、鴻音一震徹九地、四海禪人尽得聞。師云、聞處無響、声中有耳。僧云、記得、睦州和尚、開堂陞座、便問僧正、院主在麼。僧正曰、在。又問、首座在麼。僧正曰、在。又問、維那在麼。僧正曰、在。又問、州曰、三段不同、收歸上科、余義文長、付在來日。便下座。此意如何。師云、雲集包山、水朝倍海、文彩縱橫、請狀一齊。僧云、宏智古仏云、睦州和尚、十字打開、兩手分付。又如何會。師云、徧界不曾藏、通身無影像。

先師介公徹通大和尚。香氣現前、覆育兒孫來、薰烈亘天、氤氳穗烟去、以酬法乳之恩、遂就座。

淨住長老、槌一下曰、法筵竜象衆、當觀第一義。又槌一下。

師曰、若論第一義諦、為諸仏為智母、為諸聖為宗家。亘古亘今、無人疑著。衆中莫有下解商量底衲子上麼。僧問、彩鳳銜來、棲庭玉樹、曇華開敷、世界方香。是如何奇瑞乎。師曰、人人鼻孔、本無疑著。僧云、虎嘯風生、竜吟雲起。五位位別、君臣道合。所當此時節、釂尊降生藍園、和尚放出生普光。釂尊即一手指天、一手指地云、天上天下唯我獨尊。今日普光、最初一句如何。師云、法座類妙高、堂堂堆露地。僧云、鴻音一震徹九地、四海禪人尽得聞。師曰、聞處無響、声中有耳。僧云、睦州和尚、開堂陞座¹⁰、問僧正、院主在麼。僧正云、在。又問、首座在麼。僧正曰、在。又問、維那在麼。僧正云、付在來日。便下座。此意如何。師曰、雲集包山、水朝倍海、文彩縱橫、請狀一齊。僧云、宏智古仏曰、睦州和尚、十字打開、兩手分付。又如何會。師曰、徧界不曾藏、通身無影像。

古写本(大乘寺所蔵「秘本」)

身無影像。僧云、古仏道処、与和尚道底、畢竟是同是別。師曰、老師云、老僧曾不居同異中。僧云、截瓊枝寸々是宝、碎梅檀片々皆香。師云、天上星普輝、地下木等翠。僧云、當山有當山有二十境、一々拳問於十方來衆前、思贊歎、許否。

師云、山谷高低、有誰疑著。僧云、全身坐斷孤峰露、宿月斷声月斷声何更問。不踞猿嶺乎。師云、坐斷千峰與万峰、四海言落便宜。集雲峰可如此歟。師云、竜松起雲、石虎嘯風。四海五湖收一目。僧云、方有松風弘白月、更無垂語落五湖收一目。僧云、方有松風弘白月、更無垂語落便宜。集雲峰可如此歟。師云、竜松起雲、石虎嘯風。僧云、般柴運水是神通、入谷登峰般若風。運水峰又如何。僧云、般柴運水是神通、入谷登峰般若風。運水峰又如何。師曰、洗清天¹¹尚令清、曹源一滴盈江湖。僧云、金粟如來那一著、大原今日拈将来。粟生原一種如何。師曰、金粟如來那一著、大原今日拈将来。粟生原一種如何。師曰、金粟如來那一著、大原化生。僧云、稻荷瑞現閻浮提、正命從前有孰疑。稻荷瑞應如何。師云、山前一片閑田地、幾度壳來幾度買。僧云、劫外露來香積飯、作山作塚絕飢情。向飯盛塚如何下觜。師云、香積一鉢飯、万人用未尽。僧云、死中有活六門開、五老如如冷坐来。埋死谷又如何。師云、一花開五葉、結果自然成。僧云、一株卓立水雲邊、

流布本(大乘寺所蔵本)

僧云、古仏道処、与和尚道底、畢竟是同是別。師曰、老僧曾不居同異中。僧云、截瓊枝寸寸是宝、碎梅檀片片皆香。師云⁽²¹⁾、天上星普輝、地下木等翠。僧云⁽²²⁾、當山有十境、一一拳問於十方來衆前、思贊歎、許否。師曰、山谷高低、有誰疑著。僧云、全身坐斷孤峰露、宿月斷声何更問。不踞猿嶺乎。師云、坐斷千峰與万峰、四海言落便宜。集雲峰可⁽²³⁾如此歟。師云、竜松起雲、石虎嘯風。僧云⁽²⁴⁾、般柴運水是神通、入谷登峰般若風。運水峰又如何。僧云⁽²⁵⁾、般柴運水是神通、入谷登峰般若風。運水峰又如何。師曰、洗清天¹¹尚令清、曹源一滴盈江湖。僧云、金粟如來那一著、大原今日拈将来。粟生原一種如何。師曰、金粟如來那一著、大原化生。僧云、稻荷瑞現閻浮提、正命從前有孰疑。稻荷瑞應如何。師曰、山前一片閑田地、幾度壳來幾度買。僧云、劫外露來香積飯、作山作塚絕飢情。向飯盛塚如何下觜。師曰、香積一鉢飯、万人用未尽。僧云、死中有活六門開、五老如如冷坐来。埋死谷又如何。師云、一花開五葉、結果自然成。僧云、一株卓立水雲邊、

弘^レ地枝條影拄^レ天。掛鞋榎樹如何會。師云、航海梯^レ山來底人、悉無^レ不^レ還^二草鞋錢^一。僧云、石烏解語無^二人聽^一說^二。聰^一同時自點頭。烏石解語、誰人知音。師云、望州亭、烏石嶺、相見早晚休。僧云、石女翻^レ袂離^二識情^一、木人和^レ處是無生、巫女原又如何。師云、石女歌舞、木人撫^レ掌、如^レ愚如^レ魯、似^二主中主^一。僧云、十境一々蒙^二註破^一、洞山一滴大陽案⁴、十境相連水脈通、梵宇挿^レ雲深翠外、玉樓朱閣掛^二虛空^一、是不^二當山那一境^一乎。師云、十境一一蒙^二註破^一、洞山一滴大陽宗、十境相連水脈通、梵宇挿^レ雲深翠外、玉樓朱閣掛^二虛空^一、是不^二當山那一境^一¹²。師云¹²、十境普光洞谷山、大陽盈^レ目古今顯。師乃云、妙靈廓通、普光赫奕、圓照不^レ遺、有^レ誰疑著。見聞俱不^レ誤、受用已無碍。人々尽有^二光明在^一、全体不^レ藏露堂々。不^レ待^二石鳥龜解語^一、不^レ妨木上坐聽証。從來不^レ屬^二知不知^一、誰道平常心是道。祖師授手伝心、諸佛印証密授。不可以相取、不可^二以^レ事求^一、唯心証神契、乃命脈即通。乃命脈即通。超出有空量之表、獨^二尊^一佛祖位之際、妙德尊^二寰宇^一、高明^二寰宇^一、高明朗^二太虛^一、方知^レ道。一切處是你自己、一切處是你光明、一切處是你坐道場、一切處是你作仏事。還^レ家穩坐時、如家穩坐時、如何會取去。置^二弘子^一良久、謝辭不^レ錄。適來拳問、睦州開堂陞座、問^二僧正^一云、院主在麼。僧正云、在。又問、首座

弘^レ地枝條影拄^レ天。掛鞋榎樹如何會。師曰、航海梯^レ山來底人、悉無^レ不^レ還^二草鞋錢^一。僧云、石烏解語無^二人聽^一說^二。聰^一同時自點頭。烏石解語、誰人知音。師曰、望州亭、烏石嶺、相見早晚休。僧云、石女翻^レ袂離^二識情^一、木人和^レ處是無生、巫女原又如何。師曰、石女歌舞、木人撫^レ掌、如^レ愚如^レ魯、似^二主中主^一。僧云、十境相連水脈通、梵宇挿^レ雲深翠外、玉樓朱閣掛^二虛空^一、是不^二當山那一境^一乎。師曰、十境一一蒙^二註破^一、洞山一滴大陽案⁴、十境相連水脈通、梵宇挿^レ雲深翠外、玉樓朱閣掛^二虛空^一、是不^二當山那一境^一。師云¹²、十境普光洞谷山、大陽盈^レ目古今顯。師乃曰、妙靈廓通、普光赫奕、圓照不^レ遺、有^レ誰疑著。見聞俱不^レ誤、受用已無碍。人人尽有^二光明在^一、全身不^レ藏露堂堂。不^レ待^二石鳥龜解語^一、不^レ妨木上座聽証。從來不^レ屬^二知不知^一、誰道平常心是道。祖師授手伝心、諸佛印証密授。不可^二以^レ事求^一、唯心証神契、乃命脈即通。超出有空量之表、獨^二尊^一佛祖位之際、妙德尊^二寰宇^一、高明^二寰宇^一、高明朗^二太虛^一、方知^レ道。一切處是你自己、一切處是你光明、一切處是你坐道場、一切處是你作仏事。還^レ家穩坐時、如何會取去。置^二弘子^一良久、謝辭不^レ錄。適來拳問、睦州開堂陞座、問^二僧正^一曰、院主在麼。僧正云、在。又問、首座

古写本 (大乗寺所蔵「秘本」)

又問、首座在麼。僧正云、在。又問、維那在麼。僧正云、在。州云、在。州云、三段不^レ同、收帰^二上科、余義文長、付^二在來日。宏智古仏、在^レ円通^一日、就^二東林寺^一開堂、拳^二此因縁^一云、睦州和尚、十字打開、両手分布。睦州開堂、円通為^二你諸人、點檢了也。圓通開堂、諸人且道、畢竟你作麼生。相逢會有^二知音知、有^二知音知、何必清風動^二天地。睦州宏智、七通八達、到頭一句、疑著頭一句、疑著自絕。洞谷開堂、為^レ人又作麼生。拳山匝地兩知己、玉石兩知己、玉石全身百雜碎。淨住長老白槌^二云、諦觀法王法、法王法如法王法。槌一下、下座。

- 1 「傘」の右脇に「蘇旱切^一雨具^二」あり
- 2 「枝」の右脇に「技イ」あり
- 3 「榎」の右脇に「古馬切山楸」あり
- 4 「案」の右脇に「宗イ」あり

流布本 (大乗寺所蔵本)

在麼。僧正云⁽²⁾、在。又問、維那在麼。僧正云⁽²⁾、在。州云⁽³⁾、三段不^レ同、收帰^二上科、余義文長、付^二在來日。宏智古仏、在^レ円通^一日、就^二東林寺^一開堂、拳^二此因縁^一云、睦州和尚、十字打開、両手分布。睦州開堂、円通為^二你諸人、点檢了也。圓通開堂、諸人且道、畢竟你作麼生。相逢會有^二知音知、何必清風動^二天地。睦州宏智、七通八達、到頭一句、疑著自絕。洞谷開堂、為^レ人又作麼生。拳山匝地兩知己、玉石全身百雜碎。淨住長老白槌^二云、諦觀法王法、法王法如是。槌一下、下座。

- 1 「牀」の下に「イニ^(駒)は「イニ」を「異有」に作る)
- 2 「衆」の下に「異本有^同、行者三拜」あり
- 3 「今」の右に「異本階下問訊下^云、侍者燒香下座、問^二訊楷下^一、両班問訊如^レ常。但毎^二問訊^一鳴^二法鼓^一（永^(駒)は「鼓」を「事」に作る）。後淨住長老問訊、云云」あり
- 4 「集」の右脇に「異作^レ衆」あり（駒はこの注なし）
- 5 「能」の右脇に「異本有^二南閻浮提大日本國^一」あり（駒はこの注なし）

『洞谷記』二種对照(一)(河合)

古写本(大乗寺所蔵「秘本」)

流布本(大乗寺所蔵本)

(4) 五月十六日、碩首座已下、僧衆廿人、為總持寺僧
堂開一出山。

(63)¹ 同五月十六日、碩首座已下、僧衆二十人、為總持
寺僧堂開一出山。

(13) 駒は「無」を「无」に作る
(14) 駒は「所」の下に「以」あり
(15) 永駒は「云」を「曰」に作る
(16) 駒は「堆」を「推」に作る
(17) 駒は「海」の下に「之」あり
(18) 駒は「座」の下に「便」あり
(19) 駒は「智」を「知」に作る
(20) 駒は「日」を「云」に作る
(21) 駒は「云」を「日」に作る
(22) 駒は「云」を「云」に作る
(23) 駒は「般」を「槃」に作る
(24) 駒は「稻荷」の左脇に「鎮守神」あり
(25) 駒は「柱」を「柱」に作る
(26) 駒は「云」を「曰」に作る
(27) 駒は「一切處是你自己」なし
(28) 駒は「云」を「曰」に作る
(29) 駒は「云」を「曰」に作る
(30) 駒は「云」を「曰」に作る

1 「同」の右脇に「正中元年甲子也」あり

(5) 五月廿九日、始開僧堂、請両班。

(6) 七月七日、總持寺住持職、讓与碩首座峨山老。法衣開堂着、用柱杖払子戒策、同付嘱。即日新命、始東堂相看時、興聖自作三尺竹籠、鉄尺定三尺二寸、日本最初入室竹籠、付授之。

三日間、吉事連続。七日夜、受戒人十五人、四部衆調、出家數多。八日、又受戒者十三人、是四部調。九日、大般若入寺。十日、新命以下衆僧転読、洞谷開題、委曲宣說般若。十二日、帰寺。

(65) 同七月七日、總持寺住持職、讓与碩首座峨山老。著法衣開堂、柱杖^①払子戒策、同付嘱。即日新命、始東堂相看時、與^②興聖¹三尺竹籠。鉄尺定三尺二寸也。日本最初入室竹籠、付授之。

三日間、吉事連続。七日夜、受戒人十五人、四部衆調、出家數多也。八日夜、又受戒人十三人、是四部衆調。九日、大般若經入寺。十日、新命以下衆僧転読、洞谷開題、委曲宣說般若。十二日、帰寺。

1 「聖」の下に「異有自作」あり（駒はこの注なし）

① 駒は「柱」を「柱」に作る

② 永は「与」の右脇に「イニナシ」あり

③ 永駒は「人」なく、永は「戒」の下に「イニ人」あり

(7) 七月六日庚辰、額入寺、普光堂、最勝殿、永光寺、香積院、選仏場、妙嚴院、洞谷山、二枚未到来。行能玄孫經朝嫡孫行房書。一寺七堂額、一筆書、奇代不思議也。縱

『洞谷記』二種対照(一)(河合)

古写本(大乗寺所蔵「秘本」)

流布本(大乗寺所蔵本)

縱雖為勅宣、一枚二枚不可過、山門慶幸也。入寺日、即有吉事、所謂涅槃像、加賀国野市藤次、捨入安置。常樂我淨、四德波羅密、不慮圓成。額入寺後、當¹七日²十一日、瑩山帰寺。當¹九日²十四日、作僧一人、明淨、雲性、掛搭。九日間連日、十方供養在之。条々皆額下吉兆也。

雖為勅宣、一枚二枚不可過、山門慶幸也。入寺日、有吉事。所謂涅槃像、加賀国野市藤次、捨入安置。常樂我淨、四德波羅密^①、不慮圓成。額入寺後、當¹七日²十二月一日、瑩山帰寺。當¹九日²十四日、作僧一人、法名明常³、雲性⁴。九日間連日、供養在之。条々皆額下吉兆也。

1 「孫」の下に「異有経朝嫡孫」あり

2 「日」の下に「異有即」あり(駒はこの注なし)

3 「常」の下に「異作淨」あり(駒はこの注なし)

4 「性」の下に「異有掛搭」あり

① 永は「密」を「蜜」に作る

② 駒は「也」なし

(8) 正中二年乙丑四月十一日、照円觀聽¹許戒法。予問²照姉公、臨濟拳³詫⁴、如何會取。照良久。予許可曰、汝道處難⁵上⁶紙墨。照禮拂去。即紹嗣⁷戒法。

(67) 同十一日、照円觀聽¹許戒法。同日、予問²照姉公、臨濟拳³詫⁴、如何會取。照良久。予許可曰、汝道處難⁵上⁶紙墨。照禮拂去。即紹嗣⁷戒法。

(9) 同十二日、以¹円通庵主、并侍者維那等、門²送加州宝³州⁴宝⁵應寺坊⁶主職⁷。

1 「日」の下に「異作¹十一日」あり

2 正中二年乙丑四月十日¹、以²円通庵主、任³加州宝⁴州⁵宝⁶應寺房⁷主職²。

² 「職」の下に「異本云（駒は「云」を「曰」に作る）、以
円通庵主、并侍者維那等、門送加州宝應寺房主職」あり

(10) 同十五日、結夏日入院。經三日、聖僧安座。請
淨住洪長老。

(11) 同十四日、覺明庵主、持參布薩籌竹^一曰、遠江國光明山寺篠竹也。捨入當山常住。伝聞、永平寺布薩籌竹者、伊勢國鈴賀山篠竹云。予感遠國持來懇志、即打調作布薩籌^一者也。

(12) 遺跡諸寺之用心置文一通継目加判形。

(13) 正中二乙丑五月廿三日、發兩願。生々世々、化度利生、至等正覺、乃至有過々遠々罪、微不能消。以為我珍寶、救濟諸衆生。別願一切不^レ管、雖是操行、此兩願者此兩願者不^レ私。一願者、於_下發菩提心之生生、本師寶慶不^レ私。一願者、於_下發菩提心於生生、本師寶慶円和尚所、諸共、為慈氏菩薩證明。發^レ之故、不^レ顧身命、生々世々、可_下如^二本願^一護持^上。一願者、於_下今生悲母懷觀大師、最後

(70) 同十四日、覺明庵主、持參布薩籌竹^二云、遠江國光明山寺篠竹也。捨入當山常物¹。伝聞、永平寺布薩籌竹者、伊勢國鈴賀山篠竹云。予感遠國持來懇志、即打調作布薩籌^一者也。

1 「物」の下に「異作^レ住」あり

古写本(大乗寺所蔵「秘本」)

大姉、最後遺言、領納發願、是亦女流濟度之菩薩也。敢不可レ欺、故任ニ遺命、可レ護ニ持之。三世諸仏、歷代祖師、及首楞嚴經、及首楞嚴經、一切諸經、加ニ護擁ニ護、予金剛ニ願心。^③願叶ニ仏意ニ者、必可レ感ニ靈夢。思念打眠、即夜晚天、感夢云、有隨身所持有ニ隨身所持旧納袈裟、久不ニ搭著。今欲ニ搭著ニ披見者、有鼠巢、以叶ニ仏意ニ者、必可レ感ニ靈夢。思念打眠、即夜晚天、感夢云、有隨身所持舊納袈裟、久不ニ搭著。今欲ニ搭著ニ披見者、有鼠巢、以牛糞馬糞、及馬尾人毛等、諸不淨塵穢、汚染之。即打振捨了著用。誠奇夢瑞夢。本願新成瑞相也。仏祖感應、証明兩願者也。

1 「生生」の右脇に「今生イニ」あり

遺言、領納發願、是亦女流濟度之菩薩也。不可レ敢欺、任ニ遺命、可レ護ニ持之。三世諸仏、歷代祖師、及首楞嚴經、一切諸經、加ニ護擁ニ護、予金剛ニ願心。^③叶ニ仏意ニ者、必可レ感ニ靈夢。思念打眠、即夜晚天、感夢云、有隨身所持舊納袈裟、久不ニ搭著。今欲ニ搭著ニ披見者、有鼠巢、以牛糞馬糞、及馬尾人毛等、諸不淨塵穢、汚染之。即打振捨了著用。誠奇夢瑞夢。本願新成瑞相也。仏祖感應、証明兩願者也。

1 「於」の下に「異作レ之」あり(駒はこの注なし)

2 「明」の下に「異有レ發」(駒は「異本有レ願」)あり

3 「心」の下に「異有レ願」あり

4 「也」の下に「異本此文初云(駒は「云」を「曰」に作る)、遺跡諸寺之用心置文ニ通、繼目加判形」あり

① 「之」の右脇に永は「イニナシ」、駒は「異本ナシ」あり
② 駒は「棱」を「楞」を作る
③ 駒は「心」の下に「願」あり

流布本(大乗寺所蔵本)

(14) 同廿四日、先師奘和尚月忌諷經、帰後記レ之。

(74) 同廿四日、先師奘和尚月忌諷經、帰後記レ之。

(15) 当山住次尊宿、先瑩山法嗣中、揀嗣法臘次¹、可住持興行。吾有四門人、若又有二人歟、有孫弟法嗣一人。住持闕如者、六兄弟中、勵力束箋、興化利生。是山僧現存悉知、尽未來際、法孫相続者、可依各人興法利生。唯願、法孫歷代、代仏揚化、揚化不斷絕矣。

正中乙丑初秋一日記。

明峰、無涯、峨山、壺庵、孤峰、珍山。

1 「各人」の右脇に「或作各々」あり

(16) 正中二年乙丑七月廿八、溪都寺、尊道都寺、相伝戒法。同日夜半、明兄附法、相伝坐具。是予末後法嗣也。即曉出寺、往出雲國。

(17) 同七月十六日、感瑞夢云、或人一尺余計深箱、在清水、水上如金鉤文字浮。云、室岩殿斗谷、同清流也。覺後悟云、室少室也、岩殿石頭也、斗谷洞谷也。三人知不別、同清流。是吉徵也。

(75) 同七月一日、当山住次尊宿、先瑩山法嗣中、揀嗣法臘次¹、可住持興行。吾有四門人、若又有二人孫弟法嗣歟。又住持闕如者、六兄弟中、勵力束箋、興化利生。是山僧現存悉知、尽未來際、法孫相続者、可依各人興法利生。唯願、法孫歷代、代仏揚化、化化不斷絕矣。

明峰、無涯、峨山、壺庵、孤峰、珍山。

1 「矣」の下に「異本云(駒は「云」を「曰」に作る)、正中乙丑初秋二(駒は「二ナシ」)日記」あり

(76) 同七月十六日、感瑞夢曰、或人一尺余計深箱、在^①清水、水上如金鉤文字浮。云、室岩殿斗谷、同清流也。覺後悟曰、室少室也、岩殿石頭也、斗谷洞谷也。三人知不別、同清流。是吉徵也。

① 駒は「在」を「有」に作る

古写本(大乗寺所蔵「秘本」)

流布本(大乗寺所蔵本)

(18) 次五月廿日、鎮西智者、遠訪風來。曹山重編五位君臣一冊、投子青語一冊、真歇了語、将来。重編者、太宋未流布、況乎日本始見之、大可秘藏。非其人者、不可令見、可為家重寶。投子語、真歇語者、開印板可流布。

(72) 同五月廿日、鎮西智侍者、遠訪風來、曹山重編五位君臣一冊、投子青語一冊、真歇了語一冊、将来。云、重編者、太宋國未流布、況乎日本始見之、大可秘藏。非其人者、不可見、為家重寶。投子語、真歇語者、開印板可流布。

(19) 孝服可着人々

素哲白衣、白衫。智洪背白衫、白對。紹碩同。至簡同。尊道白
白袈裟。白紐。祖溪同。忍戒白背。惠球同。明照白對。源昭白背袈裟。
紐。生麻衣。子敏生麻衣。平交僧尼皆白紐。

(80) 孝服可著人人次第

素哲白衣、白衫。智洪背白衫、白對。紹碩同。至簡同。尊道白
白袈裟。白紐。素溪同。忍戒白背。慧球同。明照白對。源照白背袈
裟。生麻衣。子敏白紐袈裟。平交僧尼皆白紐。

(20) 瑩山始踏当山夜、此地夢看榎樹大。

繫鬱枝條盈溪澗、方來多掛破草鞋。

覺悟為海內名藍、江湖雲水集當山。

(83) 瑩山始踏当山夜、此地夢看榎樹大。

繫鬱枝條盈溪澗、方來多掛破草鞋。

覺悟為海內名藍、江湖雲水集當山。

翼日密語本旦主、自余永占茲山了。

後年見出榎樹株、再生枝條漸繁鬱。

緇白擁護須生長、樹神必鎮護山門。

文保戊午秋記之。

(21) 元應二年庚申、除夜小參。示_二當山因由_一曰、記得、永平和尚云、百千万境一時顯、仏現祖來教_二彼題_一。試向_二當門_一加_二拶_一、千山万谷幾高低。曾孫紹瑾棟息統韻、大眾衆要_レ聽麼。良久云、無思無覺無生話、鼻孔眼睛自_レ余題、若令_二双眉伝語去_一、空門終不_レ分_二高低_一。勿_下把_二是非_一來辨_七我、我、浮世穿鑿不_二相干_一。山僧本宴_二坐水月道場_一、接_二得鏡裏諸人_一、入_二如幻三昧_一、作_二夢中仏事_一。所謂當山本主平氏女、欲_下請_二山僧_一而施_中與當山_上、最初與_二海野信直_一、求_二庵居地於山中、時卜_二此洞_一而為_二一坐具地_一。還寄_二宿檀主亭_一夜夢、山僧蹲_二當山奧頂_一、遙見_二山下_一、主山高安山下。天地之間洞庭之內、忽在一寺而化現。數閣並棟、縱橫盈_レ谷。當門前右、在_二大榎樹_一、枝條繁鬱。為_下方來群集、而懸_二數多破草鞋_一樹上。山僧占_レ夢覺悟、山僧若止_二住此山_一、方來衲子、

翌日密語本檀主、自余永占茲山了。

後年見出榎樹株、再生枝條漸繁鬱。

緇白擁護須生長、樹神必鎮護山門。

文保戊午秋記之。

(17) 元應二年庚申、除夜小參。示_二當山因由_一、記得、永平和尚曰、百千万境一時顯、仏現祖來教_二彼題_一。試向_二當門_一加_二拶_一、千山万谷幾高低。曾孫紹瑾棟息統韻、大眾衆要_レ聽麼^①。良久曰、無思無覺無生話、鼻孔眼睛自_レ余題。若令_二双眉伝語去_一、空門終不_レ分_二高低_一。勿_下把_二是非_一來辨_七我、我、浮世穿鑿不_二相干_一。山僧本宴_二坐水月道場_一、接_二得鏡裏諸人_一、入_二如幻三昧_一、作_二夢中仏事_一。所謂當山本主平氏女、欲_下請_二山僧_一而施_中與此山_上、最初與_二海野信直_一、求_二庵居地於山中、時占_二此洞_一而為_二一坐具地_一。還寄_二宿檀主亭_一夜夢、山僧蹲_二當山奧頂_一、遙見_二山下_一、主山高安山下。天地之間洞庭之內、忽在一寺而化現。數閣並棟、縱橫盈_レ谷。當門前右、在_二大榎樹_一、枝條繁鬱。為_下方來群集、而懸_二數多破草鞋_一樹上。山僧占_レ夢覺寤^③、山僧若止_二住此山_一、方來衲子、

古写本(大乘寺所蔵「秘本」)

流布本(大乘寺所蔵本)

衲子、必可還草鞋錢、為勝地瑞。加之、次年見夢在所岸、天生在一榎樹、杪隨成長茂鬱、而山門必繁榮。雲倍群集埋山谷、水弥漫通盈江湖、奇哉奇哉。寤寐合一、夢覺一致。者何、行脚僧称雲水、為尋師訪道事、梯山航海、或東或西、向南向北、居所不定、逶迤行脚、騰々登往、漸々下去、如雲似水、尽山窮海。著草鞋、肩拄杖。若覓得機緣善知識、直開明行脚正法眼。即為還草鞋錢、拗折主丈處、是衲子通規。憶夫、始縛茅屋時、十六羅漢内、第八伐闍羅弗多羅尊者、來於山中而入夢。看山熟視、告瑾上座曰、當山雖為小所、頗為勝地、不当障碍神所居。興化門事、如願成就。仍結茅屋、接待方來、茶湯点松葉、器物用栢葉。始受施供、以合子為糰、糰未治定、人施函丈、接得雲水。遠慕洞山、近重感夢、合号洞谷山大榎峰永光妙莊嚴院。憑三寶²聖觀音³虛空藏⁴三天⁵毘沙門⁶、為供衆檀越。課⁷山神土地招宝、為打給使者。於是、安居初夏、於當國長者沢所、都寺侍者、天運得糰、納寺庫滿三年。臘八夜打睡、

必可還草鞋錢、為勝地瑞。加之、次年見夢在所岸、天性在一榎樹、杪隨成長茂鬱、而山門必繁榮。雲倍⁴群集埋山谷、水弥漫通盈江湖、奇哉奇哉。寤寐合一、夢覺一致。者何、行脚僧称雲水、為尋師訪道事、梯山航海、或東或西、向南向北、居所不定、逶迤行脚、騰³登往、漸漸下去、如雲似水、尽山窮海。著草鞋、肩拄杖。若覓得機緣善知識、直開明行脚正法眼。即為還草鞋錢、拗折拄杖處、是衲子通規。憶夫、始縛茅屋時、十六羅漢内、第八伐闍羅弗多羅尊者、來於山中而入夢。看山熟視、告瑾上座曰、當山雖為小所、頗為勝地、不当障碍神所居。興化門事、如願成就。仍結茅屋、接待方來、茶湯点松葉、器物用栢葉。始受施供、以合子為糰、糰未治定、人施函丈、接得雲水。遠慕洞山、近重感夢、合号洞谷山永光妙莊嚴院。憑三寶⁶聖觀世音⁷虛空藏⁸三天⁹毘沙門¹⁰、為供衆檀越。課¹¹山神土地招宝、為打給使者。於是、初夏安居、於當國長者沢所、都寺侍者、天運得糰、納寺庫滿三年。臘八夜打睡、

八坐睡、此糪入夢。在老僧面前側立、加持欲使用。檀越同
檀越同曉又夢、有レ人供大飯餚於予、予喫食而施餽飯於他。
他。所以、以此糪校老僧鉢盂、當三分二、自然應仏子節量食。
子節量食。夫、以虚空量為鉢盂、以一合相為器物、受用隨人、
受用隨人、分量不定。今夜當節分除夕、明朝從歲旦
立春、運鉢盂無窮法喜食、用長者沢衆寶涌出糪。是故
或時、以一合衆寶糪為一斗、或時、以一人天應供鉢盂
盆為一糪。極大同小、極小同大。白毫覆育之恩惠、
遺弟受用之喫飯人喫飯。飯喫人粥足飯足、自具不費一粒
之氣概。所以、以斗為糪又得、以糪為合又得。要レ小
時使レ小、要レ大時使レ大、仏道本超₉出豐檢。故主事、必
運用大量來、且以日食擬一斗、分三分、二分調三
宝敬田供養、一分充下輩非田食料。多少同隨營事比丘
之手段、大小自任人天供給之天福。衆本非有限衆、福
必招無窮福。衆縱有多寡、食當日料。做飯可得者
做飯、做飯不足做粥、做粥不足做米湯。欲₁₀傳通芙蓉家訓、知事運
芙蓉家訓、知事運₁₁大心、供二十方僧、典座調三德、修₁₂
二福田。釈尊二千年之遺恩、尽大地受用之無窮。且問
大衆、無窮福業、

此糪入夢。在老僧面前側立、予加持欲使用。檀越同
曉又夢、有レ人供大飯餚於予、予喫食而施₉餽飯於他。
以、此糪校老僧鉢盂、當三分二、自然應₁₀仏子節量食。
夫、以虚空量為鉢盂、以一合相為器物、受用隨人、
分量不定。今夜當節分除夕、明朝歲旦立春、運鉢盂無
窮法喜食、用長者沢衆寶涌出糪。是故或時、以一合衆
寶糪為一斗、或時、以一人天應供鉢盂為一糪。極大
同小、極小同大。白毫覆育之恩惠、遺弟受用之喫飯人喫
飯。喫飯人粥足飯足、自具不費一粒之氣概。所以、以
斗為糪又得、以糪為合又得。要レ小時使レ小、要レ大時
使レ大、仏道本超₉出豐檢₁₁。故主事、必運用大量來。且
以日食擬一斗、分三分、二分調三宝敬田供養、一分
充下輩非田食料。多少同隨營事比丘之手段、大小自任₁₂
人天供給之天福。衆本非有限衆、福必招無窮福。衆縱
有多寡、食當日料。做飯可得者做飯、做飯不足
做粥、做粥不足做米湯。欲₁₀傳通芙蓉家訓、知事運
大心、供二十方僧、典座調三德、修₁₂二福田。釈尊二千年
之遺恩、尽大地受用之無窮。且問大衆、無窮福業、

『洞谷記』二種对照(一)(河合)

古写本(大乗寺所蔵「秘本」)

流布本(大乗寺所蔵本)

問「大衆、無窮福業、又如何。良久云、幽洞不拘²關鎖意、

往来那涉²兩頭人。

以²是小參、可³為明²當山緣起、委細留記錄、以為²來

際後鑑。

元応參年辛酉孟春日記

- 1 「非」の右脇に「悲イニ」あり
- 2 「洞」の右脇に「谷」あり

又如何。良久曰¹³、幽洞不拘¹³關鎖意、往来那涉²兩頭人。
以²是小參、可³為明²當山緣起、委細留記錄、以為²來際
後鑑、云云。

元応三年辛酉孟春日記

- 1 「由」の下に「異有^レ曰字」あり
- 2 「地」の下に「異有^レ之字」あり
- 3 「寤」の下に「異作^レ悟」あり
- 4 「性」の下に「異作^レ生」あり
- 5 「糰」の下に「異作^レ糰(駒は「糰」の下に「字」あり)」
あり
- 6 「山」の下に「異有^レ大棲峰」あり
- 7 「居」の下に「異作^レ安居初夏」あり
- 8 「打」の右脇に「坐イニ」あり
- 9 「鑄」の下に「異作^レ餚(駒は「餚」の下に「字」あり)」
あり
- 10 「以」の下に「異有^レ以」あり(駒はこの注なし)
- 11 「朝」の下に「異有^レ従(駒は「従」を「役」に作る)」
あり
- 12 「飯」の下に「異作^レ飯喫」あり

14 13 「洞」の右脇に「谷イニ」あり (駒はこの注なし)

「明」の右脇に「為イニ」(永は「異有」為に作る)あり

(駒はこの注なし)

駒は「廢」なし

駒は「日」を「云」に作る

駒は「柱」を「柱」に作る

駒は「柱」を「柱」に作る

駒は「柏」を「柏」に作る

駒は「二」を「式」に作る

駒は「世」なし

駒は「打」を「坐」に作る

駒は「檢」を「儉」に作る

駒は「非」の右脇に「悲イニ」あり。駒は「非」を「悲」

を作る

駒は「任」を「在」に作る

駒は「之」なし

駒は「日」を「云」に作る

(1) 洞谷山永光寺草創記

当山者、賀嶋郡酒井保内也。四至界在一本券文書。平氏女者、酒勾八郎頼親女子也。海野三郎滋野信直妻室也。兩人俱以信心所施也。即發言曰、我等施此小山一志、唯望

(22)

古写本(大乘寺所藏「秘本」)

和尚一時之居住而已。全不_レ顧_ニ成壞興廃、又不_レ思_ニ和尚持戒破戒。乃至、与_ニ在家妻子眷屬、及非人乞者、我不_レ管_レ之。一施_ニ和尚後、再無_レ顧_ニ管領之念_ニ、永發_ニ捨心_ニ了、敢心_ニ了、敢無_ニ希望心_ニ。仍予感_ニ施主清淨志_ニ、以為_ニ予終焉宴息之処_ニ、乃至為_ニ累祖遺骨遺書、安置之淨處_ニ耳。

流布本(大乘寺所藏本)

此山志、唯望_ニ和尚一時之居住而已。全不_レ顧_ニ成壞興廃_ニ、又不_レ思_ニ和尚之持戒破戒_ニ。乃至、与_ニ非人乞者、我不_レ管_レ之。一度施_ニ和尚後、再無_レ管領之念_ニ、永發_ニ捨心_ニ了、敢無_ニ希望_ニ²、云云。予感_ニ施主清淨志_ニ、以為_ニ予終焉偃息之処_ニ耳。

1 「与」の下に「異本有_ニ在家妻子眷屬及七字」あり

2 「望」の下に「異有_ニ心字」あり

3 「処」の下に「異有_ニ乃至為_ニ累祖遺骨遺書安置之淨處_ニ字上_ニ」あり

① ②は「偃」の右脇に、③は下に「異作_レ宴」あり

(23) 正和二年壬子春、發心施与。加之、發心施与之夜、予寄_ニ宿檀那中河引地亭、感夢、見_ニ化寺諸堂、及門前掛鞋之大榎樹_ニ、而知_ニ衲僧可_レ還_ニ草鞋錢_ニ勝地_上。納_ニ受此地_ニ、以欲_レ為_ニ生涯幽栖之寂靜処_ニ、終。

(24) 文保元年丁巳、感_ニ施主志_ニ。平氏女舍兄中河地頭酒勾平八賴基、勾平八賴基、終焉時遺命、而以_ニ親父賴親家_ニ、為_ニ彼追善_ニ、施_ニ与之_ニ。以及自身与大姉善願、施_ニ与之_ニ。以可_レ造_ニ立方丈_ニ。

(4) 文保元年丁巳、平氏女舍兄中河地頭酒勾平八賴基、終焉時遺命、以_ニ親父賴親屋_ニ、為_ニ彼追善_ニ、施_ニ与之_ニ。以可_レ造_ニ立方丈_ニ。

1 「善」の下に「異有及自身与大姉善願字」あり

(25) 同秋八月、移此屋構函丈。

(26) 十月一日、移徙。如形行入院儀式。

(5) 同秋八月、移此屋構函丈。

(6) 同十月一日、移徙。^①如形行入院儀式。

① 永は「徒」を「徙」に作り、右脇に「徙乎」あり。駒は「徙」を「徙乎」に作る

(27) 正和二年癸丑八月、始縛茅屋、為仮庫裏。其時羅漢第八尊者、在告示、入山看山、眺望而曰、此山雖為小所、之頗為勝地、尚勝于永平寺。永平寺者、方丈立處当山凹、是障礙神之所居際、自古一切有障碍、是故也。当山者不然、興化可如意、云々。誠自卓庵已九年、一切無障碍、無為修練、逐年繁昌。

(3) 正和二年癸丑八月、始結茅屋、為仮庫裏。其夜感夢曰、羅漢第八尊者來、在告示、入山看山眺望、此山者雖為小所、頗為勝地、尚勝于永平寺。永平寺者、方丈立處当山凹、是障礙神之所居際、自古一切有障碍¹。当山者不然、興化可如意、云々。自卓庵以来、一切無障碍、無為修練、逐年繁昌。

1 「碍」の下に「異本有是(駒は「是」を「此」に作る)故也」あり

2 「云」の下に「異有誠字」あり

(28) 文保元年冬、安居、簡都寺、可首座、覺曰、淨頭夢曰、當山山神稻荷喜告曰、我此山旧主也。國中勸化而可供塩

(7) 同冬、安居^①、簡都寺、可首座、覺日淨頭夢曰、當山山神稻荷喜告曰^③、我此山旧主也。國中勸化而可供塩醬、

古写本(大乗寺所蔵「秘本」)

齧、云々。鬼箭鎮_{山中西}、隻射前山鎮_{後岳}也。又予夢、當國守護神、來告曰、一國告報而供_{加菜}一種、是大鎮守一宮之冥報。又予為_{管領}而以_{楠木}作_{坐像}毘沙門。左手持手持如意寶珠、右手作_{施受印}。為_{庫下本尊}、護法感夢。

1 「日」の右脇に「日イニ」あり

(29) 又同冬、迦羅天來、給仕望_レ之。

(30) 又文保二年戊午春、光英夢、招宝七郎入_{山中}、告曰、奉_{三方丈尊命}、賞_{罰門葉}、鎮_{護山門}。仍課_{山神}一宮招宝七郎護伽藍神、為_{打給使者}。

(31) 觀音、當山先本尊也、故是為_{主位脇士}。

虛空藏、為_雨寶供_レ衆、勸_請之。是以、憑_{仏法僧三宝}二聖_{虚空藏音}并_{二天}毘沙門、為_{供衆檀越}。

流布本(大乗寺所蔵本)

云云。鬼箭鎮_{山中西方}、隻射前山鎮_{後岳}也。予夢、當國守護神、來曰、一國告報、供_{加菜}一種、是大鎮守一宮之冥報。又予為_{管領}、以_{楠木}作_{坐像}毘沙門。左手持如意寶珠、右手作_{施受印}。為_{庫下本尊}、護法感夢。

① (駒は「居」の下に「至」あり
② (駒は「可」の下に「鉄」あり
③ (駒は「告」の下に「示」あり

(8) 又同冬、迦羅天來、給仕望_レ之。

(9) 文保二年戊午春、瑛瑛者夢、招宝七郎入_{山中}、告曰、奉_{三方丈尊命}、賞_{罰門葉}、鎮_{護山門}。仍課_{山神}一宮招宝七郎護伽藍神、為_{打給使者}。

1 「瑛」の下(駒は右脇)に「異作_{光英}」あり

(10) 觀音、當山先本尊也、故是為_{主位脇士}。

虛空藏、為_雨寶供_レ衆、勸_請之。是以、憑_{仏法僧三宝}二聖_{虚空藏音}并_{二天}毘沙門、為_{供衆檀越}。

(32) 韶碩都寺、祖溪侍者、文保貳年初夏、於長者沢得大糰。今、元応貳年庚申臘月、三七日際加持、以為寺中常用也。

(33) 文保二年戊午夏末、自地底掘出有大石。人破之、自石中自石中小蛇脱出。又山下有一牛、常為寺用被借用。僧食僧菜、及材木等、運之久。有下輩見此牛、依寺用所使、現身為人坐宝宮。又山中老野狐、來衆寮檐下而脱死。彼此皆顯此地苦器解脱之靈地。

昔洴沙王、以竹林園如施仏、依信施清淨、一入此山中者、欲心微薄、白業增長。或為悲母十三回追善、勅彌本尊、或為慈父十三回修善、建立仏閣、或為自身滅罪、或為先妣得道、合力而建東司、或為亡妻追善、建立浴室。誠是諸人、善根山也、一切功德林也。況乎彼女施主、白業日々增長、發心漸々精熟。伝受仏戒、聽受心要、斷除塵勞欲心、樂欲出家淨行。遂元亨元年八月六日、剃髮為比丘尼、法名祖忍。

(11) 同初夏、韶碩都寺、祖溪侍者、於長者沢得大糰。後年、元応庚申臘月、三七日際加持、以為寺中常用也。

(12①) 同夏末、從地底掘出大石。人破之、自石中小蛇脱出。又山下有一牛、常為寺用被借用。僧食僧菜、及材木等、運之。亦有下輩見此牛、依寺用所使、現身為人坐宝宮。又山中老野狐、來衆寮檐下而脱死。彼此皆顯此地苦器解脱之靈地也。

昔洴沙王、以竹林園如施仏、依信施清淨、一入此山中者、欲心微薄、白業增長。或為悲母十二回追善、刻彌本尊、或為慈父十三年修善、建立仏閣、或為自身滅罪、造僧廁、或為亡妻頓証菩提、建立浴室。誠是諸人、善根山也、一切功德林也。況乎彼女施主、白業日々增長、發心漸々精熟。伝受仏戒、聽受心要、斷除塵勞³、樂欲出家淨行。遂元応元年己未八月六日、剃髮為比丘尼、法名祖忍。

1 「亦」の下に「異作久字」あり

『洞谷記』二種对照(一)(河合)

古写本(大乗寺所蔵「秘本」)

流布本(大乗寺所蔵本)

(34) 即改自亭為道場、又十六羅漢望召請。誠知、冥顯加護之善所者也。

(34) 元応元年九月十五日、始羅漢供、而毎十五日供養之。是尊者望也。

(12③) 即改自亭為道場、望十六羅漢召請供養。誠知、冥顯加護之善所也。

(13) 同九月十六日、始羅漢供、而毎月十五日供養之。尊者望也。

1 「六」の右脇(駒は下)に「異作五」あり

(35) 予者、洞山高祖十六世之法孫、故慕彼家風。山名為洞谷、改山為谷、転曹溪如為曹山。大陽高祖十一代之法孫、故慕盈日大陽。号永光寺。仏殿称最勝王經説時者、觀音、虛空藏、是為脇士也。思心空最勝王經説時者、觀音、虛空藏、為脇士故也。及第一故、僧堂為選仏場。思喫飯得力故、庫裏号香積院、思沐浴開悟故、浴室号明水因。

号香積院。思沐浴開悟故、浴室号明水因。

2 「罪」の下に「異有_下或為先比(永駒は「比」を「妣」に作る)得道、合_レ力而建東司字上」あり

3 「勞」の下に「異有欲心」あり
① 永は「瓶」の右脇に「異作_レ洴」、駒は下に「異作洴字」あり

(36) 抑平氏女者、永平和尚、建仁寺自御坐時御弟子、明智優婆夷再来也。予与女如磁鉄、不相離師檀師弟也。

(37) 初任首座可鉄鏡禪師、予最初五人得戒之上足也。如糸尊在世、陳如尊者、城満寺最初首座也。先師円寂時、初任首座也。淨住寺西堂也。仍於当山分半座、当山未來際、可奉敬重首座。元応三年辛酉正月廿八日、遷化。

(12②) 抑彼平氏女者、永平和尚、建仁寺御座時御弟子、明智優婆夷再来也。予与女如磁鉄、不相離師檀師弟也。

(19) 同正月廿八日、可鉄鏡遷化。予最初五人得戒之上足。如糸尊在世、陳如尊者¹、先師円寂時、初任首座、加州淨住寺西堂也。仍於当山分半座、当山尽未來際、可敬重半座也。

1 「者」の下に「異有¹城万(駒は「万」を「満」に作る)
寺最初首座也」あり

2 「座」の下に「異作²首座」あり

① 駒は「同」なし

(38) 予者從毘婆尸仏時、証羅漢果、須弥山北、雪山止住、于今有在之鳩婆羅樹神也。頭犬身鷄、腹尾蛇形、四足獸也。乍樹神証果而至今、与第四尊者蘇頻陀、共住北俱盧共住北俱盧州雪山、故現在生之。北国有縁而白山氏子也。八歲剃髮、參永平當住義介和尚會。十三作僧、為同永平二代先住辨和尚末後小師。十八發心求道。十九參寂円塔主、發菩提心、至不退転位。廿二聞聲悟道。廿

(16) 予者從毘婆尸仏時、証羅漢果、須弥山北、雪山止住、鳩婆羅樹神也。頭犬身鷄、腹尾蛇形、四足獸也。樹神乍証果而至今、与第四尊者蘇頻陀、共住北俱盧州雪山、故現在生之。北国有縁而白山氏子也。八歲而剃髮、參永平當住義介和尚會。十三歲而作僧、為同永平二代先住辨和尚末後小師。十八歲發心求道。十九歲而參寂円塔主、發菩提心、至不退転位。廿二歲而聞聲悟

古写本(大乗寺所蔵「秘本」)

五如^二觀音、發^二大悲闡提之弘誓願。廿八充^二阿州海部城万寺住持。廿九就^二永平寺演老、所^レ許^二可受戒作法。即年冬初、始^二開戒法、最初度^二五人。至卅^一、度^二七十余人。卅^二參^二得加州大乘開山介和尚宗旨、嗣法為^二長嫡、為^二大乘最初半座、而得^二分食分院佳名、得^二超師氣概證明。卅^三所^レ行^二立僧入室。卅^五登^二大乘全座、補^二任^二代住持職。十九年接化、移^二當山^一為^二開山。自^二証果^一已來、五百生來、興法利生之現身也。

達磨入^レ夢、而令^レ浴下座^一清水、從^二石間^一出^上、而在^二冷湫池^一、即裸形而令^レ賜^二袈裟^一、搭而發心。

弥勒入^レ夢、與^二青蓮華大座^一、転^レ生三生、而接引飛^レ空、諸天妓樂、奉^二送弥勒前導、而參^二兜率內院^一、而至^二不退轉位^一。廿八年接化、移^二當山^一為^二開山。自^二証果^一已來、五百生來、興法利生現身也。

流布本(大乗寺所蔵本)

道。廿五歲而如^二觀音、發^二大悲闡提之弘誓願。廿八歲而充^二阿州海部城万寺住持。廿九歲而就^二于永平演老、許^二可受戒作法。即年冬、始^二開戒法、最初度^二五人。至卅^一歲、度^二七十余人。卅^二歲而參^二得加州大乘寺開山義介和尚宗旨、嗣法為^二長嫡、為^二大乘最初半座、得^二分食分院佳名、得^二超師氣概證明。卅^三所^レ行^二立僧入室。卅^五歲而所^レ行^二立僧入室。卅^五歲²補^二任^二代住持職。十九年接化、移^二當山^一為^二開山。自^二証果^一已來、五百生來、興法利生現身也。

達磨入^レ夢、而令^レ浴下座^一清水、從^二石間^一出^上、而在^二冷湫池^一、即裸形而令^レ賜^二袈裟^一、搭而發心。

弥勒入^レ夢、與^二青蓮華台座^③、転^レ生三生、而接引飛^レ空、諸天作^二妓樂^一、奉^二送弥勒前導、而參^二兜率內院^一、至^二不退轉位^一。廿八年接化、移^二當山^一為^二開山。自^二証果^一已來、五百生來、興法利生現身也。

1 「住」の下に「異有^レ于今有在之字」あり

2 「歳」の下に「異有^レ登^二大乘全座」あり

(3) 「九」の右脇 (駒は下) に「一作^レ五」あり

駒は「末」を「未」に作る

駒は「万」を「満」に作る

永は「台」の右脇に「大イニ」あり

元応三年立春歲旦夜、打坐中不_レ夢覺、自語_二印証。

(18) 元亨元年辛酉立春歲旦夜、打坐中不_レ夢覺、語_二印証。
1 「覺」の下に「異有^レ自」あり

(39) 元応三年二月四日、見_二宝積經_一次、坐睡感夢。經文云、不_レ厭_二捨痴惑_一、不_レ樂_二欲智慧_一。覺後見_二現文_一云、淨修_二仏眼_一已、現_二証_一一切法。此句即菩提、如_三上所_二開示_一、法無_レ有_レ能示、無_レ有_レ能毀者、諸法如_二虛空_一、是故說開示。

(20) 同二月四日、見_二宝積經_一次、坐睡感夢。經文曰、不_レ厭_二捨痴惑_一、不_レ樂_二欲智慧_一。覺後現文曰、淨修_二仏眼_一已、現_二証_一一切法。此句即菩提、如_三上所_二開示_一、法無_レ有_レ能示、本無_レ能毀者、諸法如_二虛空_一、是故說開示。

1 「後」の下に「異有^レ見」あり
2 「本」の下に「異有^レ亦」あり

(40) 中尊釈迦牟尼仏、加賀国井家庄、中田右馬尉、為_二悲母_一十三年追善、以_二三十貫_一木作。

瑩山以_二五十貫_一奉_レ飭。

左脇土觀世音菩薩、洛陽高辻大宮、駿河法眼定審、為_二先考定守法眼十三年追善、木作。

(15) 中尊釈迦牟尼仏者、加賀国井家庄、中田右馬尉、為_二悲母_一十三回追善、以_二參拾貫_一木作。

瑩山以_二五十貫_一奉_レ飭。

左脇土觀世音菩薩、洛陽高辻大宮、駿河法眼定審、為_二先考定守法眼十三年追弔、木作。

『洞谷記』二種对照(一)(河合)

古写本(大乗寺所蔵「秘本」)

流布本(大乗寺所蔵本)

右脇虚空藏菩薩、加賀国富樫庄、野市藤次郎、為自身現

当願望皆令満足、木作。

右脇士虚空藏菩薩、加賀国富樫庄、野市藤四郎、為自身現
当願望皆令満足、木作。

1 「四」の右脇(永は左脇、駒は下)に「異作^レ次」あり

(41) 元亨元年辛酉、本願主海野三郎^{信濃滋野信直}、十一月一日、受戒法名妙淨。

(23) 同十一月二日、本願主海野三郎^{信直}、受法名妙淨。
1 「郎」の下に「異有^レ」(駒は「有」を「作」に作る) 信濃
國住滋野¹「あり

2 「受」の下に「異有^レ戒」あり

(42) 七月廿九日、在^レ于当山^レ始行^レ嗣法。

(21) 同七月廿九日、在^レ当山^レ始行^レ嗣法。
1 「在」の下に「異有^レ于」あり

(43) 九月十五日、建^レ宝篋印塔。

(22) 同九月十五日、建^レ宝篋印塔。

(44) 元亨癸亥十月廿四日夜、寅時感夢、有處供^レ養新法堂。法座正面有^レ三階、座上説法。不^レ覺自^レ主階^レ下立^レ地、淨住無涯、當首座明峰等、曲躬問訊。山僧又手説法曰、正眼開明、法堂大開。識得人々、不^レ立^レ階梯^①。為^レ後鑑^レ記^レ之。

(55) 同十月廿四日夜、寅時感夢云、在所供^レ養新法堂。法座正面有^レ三階、座上説法。不^レ覺自^レ主階^レ下立^レ地時、淨住無涯、當首座明峰等、曲躬問訊。山僧又手説法曰、正法開明、堂大開。識得人人、不^レ立^レ階梯^①。為^レ後鑑^レ記^レ之。
1 「同」の右脇(駒は左脇)に「元亨三年也」あり

2 「寅」の下に「異作丑」あり（駒はこの注なし）
3 「法」の下に「異作眼」（駒は「眼」の下に「字」あり）

あり

4 「明」の下に「異有法」（駒は「法」の下に「字」あり）

① 駒は「梯」を「梯」に作る

(45) 同三年癸亥七月廿一日、又行嗣法。

(44) 同七月廿一日¹、行嗣法。

1 「日」の下に「異有又」あり（駒はこの注なし）

① 駒は「日」の下に「又」あり

(46) 同八月十五日、許戒法於明孤峰。有感夢。退祖曰、開正惠。

(45) 同八月十五日、許戒法於明孤峰。有感夢。退祖曰、開正慧。

① 駒は「明」の左脇に「覺」あり

(47) 同八月廿七日、任可鉄鏡遺状。印昭珍山。

(47) 同廿七日、任可鉄鏡遺状^①。印照珍山。

① 永駒は「状」の下に「同日」あり、永は「同日」の右脇

に「異無二字」あり

② 駒は「照」の左脇に「源」あり

(48) 同八月廿九日、証嗣球金燈。

(48) 同廿八日、証嗣球^①金燈。

古写本(大乗寺所蔵「秘本」)

流布本(大乗寺所蔵本)

(49) 元亨元年十一月廿五日冬至夜、碩首座始秉払。当山
第二首座也。小参次行^レ之。辨公首座例也。

(24) 同廿五日冬至¹、韶碩首座始秉払。当山第二首座也。
小参次行^レ之。辨公首座例也。

- ① 「日」の下に「異八作^レ九」(駒は「異作^二八九^一」)あり
② 駒は「球」の右脇に「慧」あり

(50) 元亨三年四月十四日、擬^二小座湯^一而点湯、請^二首座^一。即晚、土地堂念誦罷、自^二京都^一下向、即付法弟子哲書記、
建仁寺開山塔主素哲也。夏中法益令^二分説^一、誠是室中之領
袖也。

(39) 同十四日、擬^二小座湯^一而点湯、請^二首座^一。即晚、土
地堂念誦罷、自^二京都^一附法弟子哲書記下向。建仁開山塔主
也。夏中令^二了説^一、誠是室中領袖也。

- 1 「中」の下に「異有^レ法益」あり
2 「了」の下に「異作^レ分¹ (駒は「分」の下に「字」あり)²
3 「中」の下に「異有^レ之」あり (駒はこの注なし)
① 駒は「哲」の右脇に「明峰素」あり
② 駒は「中」の下に「之」あり

(51) 同六月廿五日、普説令^レ行^二入室^一。非^レ拳^二平常立僧^一、上堂
上堂普説、師入室、贊¹正是分説也。靈山有^二分座首座^一、曹溪

(43) 同日、普説令^レ行^二入室^一。非^レ如^レ拳^二平常立僧^一、上堂
普説、師入室、資¹正是分説也。靈山有^二分座首座^一、曹溪

渓有「分化首座、迦葉、青原。大乘有「分院首座、洞谷有「分說首座、紹瑾、素哲也。

1 「贊」の右脇に「資イニ」あり

(52) 臘月十日、上堂拈香、

自己本有懷香、八百年來、大宋國裏傳來。今朝新拈出、燒
薰烈向上廿五祖大祖正宗普覺大師古仏面前、塞却向下
廿五世洞谷開闢本祖鼻孔。嗚呼、能札所札性空寂、感應
道交難思議。以酬法乳之恩。著座。欲知仏性義、當
觀時節因緣。今月者這好時節、一昨夜、釀迦老漢、六年
端坐功滿、見明星悟道、我與^二大地有情、同時成道。二
千年來、此娑婆世界、十方仏土間、無不見¹大地有情
時成道²語聞。今晚來²祖大師、一夜精進、投³入祖室、聞
聞²直指人心、見性成仏妙旨。八百年來、三国流傳、一切
衆生、緇白二衆、無不³信受直指人心見性成仏宗旨。憶
夫、二祖一夜精進、歷劫修行圓滿、換骨改髓、生前轉⁴
身來。老僧十九歲時、不死生²兜率天、登²不退転位、忝連⁵
悉連²五十四世法孫、忝為二十五世嫡孫。七九兩夜、打

有「分化首座、迦葉、青原也。大乘有「分院首座、洞谷有「分說首座、紹瑾、素哲也。

(55) 同臘月十日、上堂拈香云、

自己本有懷香、八百年來、大宋國裏傳來。今朝新拈出、燒
薰烈向上廿五祖太祖正宗普覺大師古仏面前、塞却向下
廿五世^②洞谷開闢本祖鼻孔。嗚呼、能札所札性空寂、感應
道交難思議。以酬法乳之恩。著座。欲知^③仏性義、當
觀時節因緣。今月者這好時節、一作夜、釀迦老漢、六年
端坐功滿、見明星悟道曰、我與²大地有情、同時成道。³
二千年來、此娑婆世界、十方仏土間、無不¹見²大地有情
時成道²語。今晚來²祖大師、一夜精進、投³入祖室、聞
直指人心、見性成仏妙旨。八百年來、三国流傳、一切衆生、
緇白二種、無不³信受直指人心見性成仏宗旨^⑤。憶夫、二
祖一夜精進、歷劫修行圓滿、換骨改髓、生前轉⁴
身來。老僧十九歲時、不死生²兜率天、登²不退転位、忝連⁵
十四世法孫、恐為二十五世嫡孫。七九兩夜、打坐遲明。

『洞谷記』二種对照(一)(河合)

古写本(大乗寺所蔵「秘本」)

坐遲明。等來已四十一年、一夜之無障難、連年間打坐來。
志氣超_二越古今、仏祖冥薰親切。德風內動、偃嵐_レ松、潤益
潤益外蒙、夜雨洗_レ地。夜來不_レ睡動_二天地、清白家風誰不_レ傳。
不_レ伝。八百年來今夜景、千山雪白最嬪娟。

1 「見」の右脇に「覓」あり

等來已四十一年、一夜之無障難、連年間打坐來。志氣
超_二越古今、仏祖冥薰親切。德風內動、偃嵐_レ松、潤益
外蒙、夜雨洗_レ地。夜來不_レ睡動_二天地、清白家風誰不_レ傳。
八百年來今夜景、千山雪白最嬪娟。

流布本(大乗寺所蔵本)

1 「覓」の下に「異作_レ見」あり
2 「道」の下に「異有_レ仏」あり
3 「語」の下に「異有_レ聞」あり
4 「種」の下に「異作_レ衆」あり (駒にこの注なし)
5 「恐」の下に「異作_レ恣」あり
① 「駒は「仏」の下に「之」あり
② 「駒は「世」を「祖」に作り、下に「相作_レ世」あり
③ 「駒は「著」を「着」に作る
④ 「永駒は「作」を「昨」に作る
⑤ 「駒は「宗」を「妙」に作る

(53) 十一日、有_レ僧衲被蒙頭打坐、被不_レ覺脱落、因省悟
失語曰、身心俱脱落、唯有_二一真実。

(54) 洞谷十境 加小序

(28) 洞谷十境 加小序

洞谷山居、尚厭_二西來家風、妙巖幽棲、剩隔_二指南惠日。

如愚如魯、馴狸馴狐、兔雉為伴、鴉犬不親。雲閨深鎖、水茅又迷、山路風鼓高響、雨師動變雪霰。¹ 竜眼珠擲、無價之珍珠滿庭、饗牙米簸、天然之飯食盛器。² 白毫相之覆育、殊蒙當處、阿蘭若之正行、更新³當山。僧行火客、俱修⁴梵行、心根塵緣、同作⁵仏事。運⁶水般柴、無⁷非神通妙用、摘⁸菜探⁹果、尽是轉¹⁰妙法輪。此地本異于人間、此地多似於聖跡。且題二十名所、將¹¹露¹²一山德。云¹³余、居猿嶺¹⁴在異境。凡似¹⁵猿蹲踞、宛如¹⁶飛猿嶺。脚下尽¹⁷十方、目前極¹⁸湖海。

心猿痴坐孤山巔、吞¹⁹却數峰²⁰雲霧深、

嵩岳高祖尚不²¹識、下流薄地甚知音。

集雲峰在震境。又名松尾谷。雲如蒸飯而下²²雨、霧似沸湯而上²³日、

竜松盤屈而為群、虎石峻嶮而為類。松煙鬱々雲如蓋、羊石臥並虎石蹲、

不²⁴識聖賢隱²⁵此地、霧包²⁶山骨似²⁷竜門。

運水峰在震傍。帶²⁸水冠²⁹雲、操松永革。無心而沐³⁰浴海衆、有³¹蹊而通³²水脈。偃溪通³³入路、江湖合³⁴醬去。

運水曹源一滴流、沐³⁵天浴³⁶地未³⁷曾休、

不染污中淨洗去、神通妙用江湖周。

栗生原³⁸在良傍。山田重³⁹席、天粟並⁴⁰畝。天与⁴¹福惠、稻荷峰名⁴²之、生得⁴³食分、不⁴⁴求⁴⁵自得之種草也。稻荷鳥群集、白狐⁴⁶交尾。

『洞谷記』二種对照(一)(河合)

如愚如魯、馴狸馴狐、兔雉為伴、鴉犬不親。雲閨深鎖、水茅又迷、山路風鼓高響、雨師動變雪霰。¹ 竜眼珠擲、無價之珍珠滿庭、饗牙米簸、天然之飯食盛器。² 白毫之覆育、殊蒙當處、阿蘭若之正行、更新³當山。僧行火客、俱修⁴梵行、心根塵緣、同作⁵仏事。運⁶水般柴、無⁷非神通妙用、摘⁸菜探⁹果、尽是轉¹⁰妙法輪。此地本異于人間、此地多似於聖跡。且題二十名所、將¹¹顯¹²一山德。云¹³余、踞猿嶺¹⁴在異境。凡似¹⁵猿蹲踞、宛如¹⁶飛猿嶺。下尽¹⁷十方、目前極¹⁸湖海。

心猿痴坐孤山巔、吞¹⁹却數峰²⁰雲霧深、

嵩岳高祖尚不²¹識、下流薄地甚知音。

集雲峰在震境。又名松尾谷。雲如蒸飯而下²²雨、霧似沸湯而上²³日、

竜松盤屈而為群、虎石峻嶮而為類。松煙鬱々雲如蓋、羊石臥並虎石蹲、

不²⁴識聖賢隱²⁵此地、霧包²⁶山骨似²⁷竜門。

運水峰在震傍。帶²⁸水冠²⁹雲、操松永革。無心而沐³⁰浴海衆、有³¹蹊而通³²水脈。偃溪通³³入路、江湖合³⁴醬去。

運³⁵出曹源一滴流、沐³⁶天浴³⁷地未³⁸曾休、

不染污中淨洗去、妙用神通江湖周。

栗生原³⁹在良傍。山田重⁴⁰席、天粟並⁴¹畝。天与⁴²福惠、稻荷峰名⁴³之、生得⁴⁴食分、不⁴⁵求⁴⁶自得之種草也。稻荷鳥群集、白狐⁴⁷交尾。

『洞谷記』二種对照(一)(河合)

古写本(大乘寺所藏「秘本」)

流布本(大乘寺所藏本)

天粟尽降惠_レ自然、作家種草弁_レ生縁、

毫光留卜_レ此蘭若_レ投子青苗長歴_レ年。

勝蓮峰_レ在_レ運水峰傍_レ。本此山号_レ勝蓮寺谷_レ。其故者、昔在_レ觀音堂_レ、名_レ勝蓮寺_レ。破壞年久、而又立_レ觀音堂_レ、仍名_レ勝蓮_レ。

竹煙松霧梅香好、瑞氣綿々難_レ覆埋_レ、

繚亂春風織_レ柳糸_レ、五葉_レ一花洞谷開_レ。

飯盛塚_レ在_レ寺艮_レ。形如_レ円珠_レ、勢圓_レ藏宝_レ。脚下成_レ現_レ一寺_レ、水脈流_レ注江海_レ。

飯盛塚下永光寺、養_レ得五湖四海衆、

又引_レ芙蓉法味_レ用、廬陵米_レ餉幾恢洪_レ。

埋死谷_レ在_レ寺乾_レ。山重而峰厚、木繁而蔭深。叢竹枝垂_レ、而令_レ山蔭涼遠覆_レ。宋杉葉濃_レ、而号_レ凹通風韻普忌_レ。又名_レ五老峰_レ、五代祖_レ在此谷中_レ。

二十年遺恩是厚、白毫相覆養_レ雲孫、

天恩蒙_レ死人活、土饅頭還守_レ鐵門_レ。

掛鞋榦_レ在_レ總門脇_レ。枝條繁鬱_レ、而草鞋多掛_レ。衲子群集_レ、而林下成_レ雲_レ。夢覺_レ一致_レ、洞風永扇_レ。

樹神入_レ夢鎮_レ山門_レ、洞谷叢林汝至尊、

行脚衲僧才到_レ此、草鞋脫破固_レ靈根_レ。

烏石谷_レ在_レ西山下_レ。神物護持、邪魔不_レ親。人法繁昌、事理円通。今者建_レ宝篋印塔_レ、倍_レ山下福業_レ。昔立_レ烏帽子_レ、今怪石_レ。

天粟_レ亘降惠_レ自然、作家種草辨_レ生縁、⁸

毫光留卜_レ此蘭若_レ投子青苗長歴_レ年。

勝蓮峰_レ在_レ運水峰旁_レ。本此山号_レ勝蓮寺谷_レ。其故者、昔在_レ觀音堂_レ、名_レ勝蓮寺_レ。破壞年久、而又立_レ觀音堂_レ。仍名_レ勝蓮峰_レ。

竹烟松霧梅香好、瑞氣綿綿難_レ覆埋_レ、

繚亂春風織_レ柳絲_レ、五葉_レ一華洞谷開_レ。

飯盛塚_レ在_レ寺艮_レ。形如_レ円珠_レ、勢圓_レ藏宝_レ。脚下成_レ現_レ一寺_レ、水脈流_レ江湖_レ。¹⁰

飯盛塚下永光寺、養_レ得五湖四海衆、

又引_レ芙蓉法味_レ用、廬陵米_レ餉幾恢洪_レ。¹¹

埋死谷_レ在_レ寺乾_レ。山重而峰厚、木繁而蔭深。叢竹枝垂_レ、而令_レ山蔭涼遠覆_レ。宋杉葉濃_レ、而号_レ凹通風韻普忌_レ。又名_レ五老峰_レ、五代祖_レ此谷_レ。¹²

二十年遺恩是厚、白毫相覆養_レ雲孫、

天恩蒙_レ死人活、土饅頭還守_レ鐵門_レ。

掛鞋榦_レ在_レ總門脇_レ。枝條繁鬱_レ、而草鞋掛_レ。衲子群集_レ、而林下成_レ雲_レ。夢覺_レ一致_レ、洞風永扇_レ。¹³

樹神入_レ夢鎮_レ山門_レ、洞谷叢林汝至尊、

行脚衲僧才到_レ此、草鞋脫破固_レ靈根_レ。

烏石谷_レ在_レ西山下_レ。神物護持、邪魔不_レ親。人法繁昌、事理円通。今者建_レ宝篋印塔_レ、倍_レ山下福業_レ。昔立_レ烏帽子_レ、今怪石_レ。

永光德照冠天下、才到山頭見石人、

宗旨全提示湖海、江雲流水又相親。

巫女原在西山麓。利物応縁、不忘古迹。垂手入艤、混同沙石。

石女点頭歌舞久、無生曲調有誰知、

五湖四海又衆岳、西來祖意勿狐疑。

永光德照冠天下、才到山頭見石人、

宗旨全提示湖海、江雲流水又相親。

巫女原在西山麓。利物応縁、不忘古迹。垂手入艤、混同沙石。

石女点頭歌舞久、無生曲調有誰知、

五湖四海又衆岳、西來祖意勿狐疑。

十境一首

洞谷山中存二十境、永光影外挙佳名。

踞猿嶺下對江転、運水峰頭見月明。

巫女原間人世隔、粟生野上仏種生。

掛鞋榎樹作叢席、埋死岡丘建法城。

烏石溪邊相見旧、稻荷林際道風声。

集雲深處竜蛇集、望飯盛塚誰更耕。

總頌

予占當山、而為終焉之地。戲題二十境、而為後鑑之覩。

洞山十境任看記、坐對雲峰与滄溟、

紅葉綿花還雪月、風師雨伯促閑情。

紅葉錦花還雪月、風師雨伯促閑情。

- 1 「鼓」の右脇に「伯イ」あり
- 2 「霰」の右脇に「散イ」あり
- 3 「水」の右脇に「出イニ」あり

あり

- 1 「鼓」の下に「異作レ伯（駒は「伯」の下に「字」あり）」

『洞谷記』二種対照(一)(河合)

古写本(大乗寺所蔵「秘本」)

4 「席」の右脇に「帶イニ」あり
5 「音」の右脇下に「堂イ」あり

流布本(大乗寺所蔵本)

2 「麋」の下に「異作^レ麿」あり
3 「毫」の下に「異有^レ相」あり
4 「下」の右脇に「異作^レ脚下」あり
5 「露」の右脇に「霧イニ」(永は「異作^レ霧」)あり
6 「跡」の下に「異作^レ蹊(駒は「蹊」を「渓」に作る)」あり
7 「狐」の下に「異作^レ」(永は「作」を「有」に作る)
8 「昼」の右脇に「イニ尽」(永は「異作^レ尽」、駒は下に「異作^レ尽字」)あり
9 「圃」の下に「異作^レ図」あり(駒はこの注なし)
10 「流」の下に「異有^レ注」あり(駒はこの注なし)
11 「湖」の下に「異作^レ海」あり(駒はこの注なし)
12 「鞋」の下に「異有^レ多」あり(駒はこの注なし)
13 「石」の下に「異作^レ」(駒は「作」を「有」に作る)
14 「犬」を「大」に作る

④ ③ ② ① 「駒は」
⑤ 永は 「出」の右脇に「水イニ」あり
⑥ 永は 「周」の下に「異作^レ神通妙用」あり
7 「歎」を「臥」に作る
8 「駒は」
9 「駒は」
10 「駒は」
11 「駒は」
12 「駒は」
13 「駒は」
14 「駒は」

(12) (11) (10) (9) (8) (7) (6) (5)

駒は「狐」を「孤」に作る
駒は「峰」を「寺」に作る
駒は「良」を「退」に作る
駒は「盧」を「盧」に作る
駒は「蘿」を「繁」に作る
永駒は「千」を「十」に作り、(永は右脇に「千カ」あり)
駒は「蘿」を「繁」に作る
永は「錦」の右脇に「異作^レ綿」あり